

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年 一月度 入選句 (投稿総数二千四百二十四句・小中学投句数千八百十二句)

### 特選

選者 説田 祐子

おはようが学校ゆるがす冬の朝 大垣市 木村 美月(小六)

暖冬といわれていた冬でしたが、三学期に入り急に寒くなり、登校にも困るほどの雪の日がありましたね。そんな寒い朝、登校した作者はみんなに「おはよう。おはよう」と大声であいさつしたのでしよう。周りにいた子たちもその声に負けないようにまた「おはよう。おはよう」と返したのでしよう。その声が学校を揺るがすほど大きかったなんてなんと元気な子たちがいる学校でしよう。読み手にも元気が伝わってくる俳句です。

家族の足安心できることたつの中 大垣市 青木 瑠花(小六)

寒い日にはこたつやストーブで暖まり「話はずんだ。心が温まった」ということも多いと思います。そのことを作者は「家族の足」という言葉をもってきて、「安心できる」と続けています。この言葉で作者は、やっぱり家族がいいな。ほつとするなつて思ったことが伝わってきます。こたつの中で足を絡ませながら話も弾んだことでしょう。そんな様子が伝わってくる温かい俳句です。

雪の日は子どもがすなおになれる日だ 美濃加茂市 梅村 凌太(中二)

深々と降り積もった雪、どちらを見ても混じりけのない真っ白な雪。そんな雪の朝のことでしょう。作者は、「子どもがすなおになれる日」と詠んでいます。が、子どもならずともそんな情景の中では、私たち大人でもそんな気持ちになることがあります。雪の白さを心の白にたとえた心の俳句です。中学生らしい俳句です。

### 秀逸

雪うさぎ遊ぶみんなを見ているよ 大垣市 鶴飼 麻央(小五)

大根は色白美人ならんでる 大垣市 早野 恵湿(小五)

家族との会話が增えることたつの日 美濃加茂市 美濃輪 莉香(中二)

除夜の鐘今年の思い出よみがえる 美濃加茂市 水谷 蒼空(中二)

もやい舟こいがかくれて冬うらら 大垣市 伊藤 摩歩(小六)

冬晴れの試合で打ったタイムリー 大垣市 田中 一範(小六)

まあだかな長い行列はつもうで 大垣市 棚橋 万桜(小三)

おせちばこいろとりどりでまよっちゃら 大垣市 牧原 太郎(小三)

思いこめポストへ入れる年賀状 大垣市 富田 優美(小六)

新年の抱負を決めてバット振る 美濃加茂市 坂井 真樹(中二)

入選

こたつから頭をだしたらかたつむり 大垣市 はた ゆずは(小二)  
 クリスマス家族みんなが光ってる 大垣市 さいとう ゆ衣(小四)  
 じよやのかね数えているともうねてた 大垣市 後藤 希生(小五)  
 氷わるパリパリパリ歌いだす 大垣市 井上 桃(小五)  
 雪だるま私に向かっていい笑顔 大垣市 高木 菜摘(小五)  
 しもやけた祖母思いだすだいどころ 大垣市 水谷 斗夢(小五)  
 雪だるま同じものは一つもない 美濃加茂市 松下 将典(中二)  
 雪だるま作った後は記念写真 美濃加茂市 緑川 颯介(中二)  
 雪積もる白いキャンバス絵をかこう 美濃加茂市 三浦 真美香(中二)  
 雪だるま外で家を守ってる 美濃加茂市 山下 玲音(中二)

入選

夜の雪音も立てずに景色変え 美濃加茂市 アヴェストルス(中二)  
 もやいぶねこいのかくれが冬の川 大垣市 アンンドレイ  
 秋晴れのさかさ金閣波もよう 大垣市 木村 彰太(小六)  
 太鼓打ち冬空高くひびいてく 大垣市 棚橋 佑良(小六)  
 冬の空ひびかせドドンと太鼓打つ 大垣市 高橋 千尋(小六)  
 雪だるま今日からぼくら兄弟だ 大垣市 鶉飼 麻央(小五)  
 年こしを会社ですごすお父さん 大垣市 生駒 海翔(小三)  
 年がじょうきのう遊んだ友だちも 大垣市 中村 駿斗(小三)  
 たこあがるみんなわらって空をみる 大垣市 山村 咲絢(小三)  
 北風と手つなぎおどるよ一輪車 大垣市 西本 多恵(小四)

選者吟

登校の児らの手にのる雪だるま

祐子